第48回全国高等学校総合文化祭
清流の国ぎふ総文2024

集え青き春　漕ぎ出せ知の筏
水面煌めく　清流の国へ

高文連

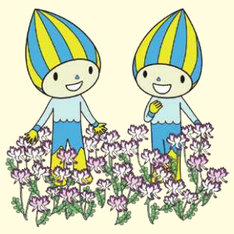
発行所
山形県高等学校文化連盟
山形県立山形北高校内
TEL(023)635-0776
発行人　丹野　学
編集　高文連事務局
印刷　㈱三省堂印刷

総合開会式

7月31日から8月5日まで、岐阜県で第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会が開催され、全国各地から多数の高校生が参加した。実行委員会の入念な準備のもと、長良川国際会議場で華やかな総合祭開会式が行われ、会場は大いに盛り上がりを見せた。

プロローグ

開会式に先立ち、地元高校生と大会マスコットキャラクター「ミナモ」の指導のもと、会場全体で「脳トレミナモ体操」が行われた。その後、県外からの来場者に向けて岐阜県の名所紹介が行われ、地元高校生が選んだ「アオハルスポット」が紹介された。最後に、実行委員が制作した「先輩からのエール」が上映され、人気芸能人やユーチューバーの登場で一層の盛り上がりを見せた。



第1部

第1部の開始とともに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下並びに悠仁親王殿下がご入場された。続いて、大会イメージソング「集え青き春　清流の国へ」の演奏とともに、開催22部門の代表生徒や全国47都道府県の代表生徒、国際交流招へい校（ベトナム、大韓民国、リトアニア）の生徒が意気込みを述べた。その後、渡辺朝陽総合開会式委員長より開会が宣言された。

続いて、全国高文連の歌を岐阜県内の4校（大垣桜高等学校、岐阜高等学校、長良高等学校、恵那高等学校）の合唱部が披露。さらに、全国高等学校文化連盟会長、文部科学大臣、岐阜県知事の挨拶が続き、生徒実行委員長の小林由奈さんが、大会開催に至るまでの苦労と努力を語り、参加生徒たちに激励の言葉を贈った。

各都道府県代表生徒挨拶

第2部

第2部では、開催県岐阜県と次年度開催県の香川県の交流が行われ、花いけバトルと並行して両県の魅力を発表。郷土料理や各県の特色が紹介され、会場は一層の盛り上がりを見せた。続いて、来年度の総文祭に関するPRが行われた。

その後、国際交流プログラムが実施され、招へいしたベトナム、韓国、リトアニアと岐阜県との関係や各学校の紹介が行われた後、ステージ発表が行われた。ベトナムの高校生はアオザイとノンラーを用いた伝統舞踊を披露。韓国の高校生は伝統衣装をまといK-POPダンスを、リトアニアの高校生はフォークダンスをそれぞれ披露した。

最後に、招へい国の高校生との交流の様子が映像で紹介され、岐阜県・香川県の高校生と招へい国の生徒たちが共に岐阜県の伝統踊り「郡上踊り」を披露し、会場は一体感に包まれた。

花いけバトル

国際交流

第3部

第3部では、岐阜県内の高校生が22部門に分かれ、それぞれの特性を生かした発表を行った。書道パフォーマンスを皮切りに、2年間の準備を経た実行委員生徒たちの熱意が伝わる内容が続々と披露された。計画と実施に携わった生徒たちの努力が感じられるスムーズな進行が印象的だった。最後に、生徒実行委員全員がステージに立ち、苦悩と努力の日々を振り返りながら感謝の言葉を述べた。観客からの拍手は鳴り止まず、吹奏楽部門・合唱部門の演奏とともに大会イメージソングが合唱され、大会は感動のうちに幕を閉じた。

エピローグ

総合開会式委員たちが観客に呼びかけ、盛り上がりを再び取り戻した。続いて、ミナモと観客が一緒に「ミナモダンス」を行い、長良高等学校吹奏楽部の演奏が行われた。最後に、同吹奏楽部が大会イメージソング「集え青き春　清流の国へ」を演奏し、観客の盛大な拍手の中、式典は幕を下ろした。

パレード

開会式終了後、岐阜メモリアルセンター前で全国から集まった約2,000人の高校生が華やかなパレードで大会の開幕を祝った。約600メートルのコースを、マーチングバンドの演奏に合わせたバトンやフラッグの演技が彩り、海外招へい校や生徒実行委員も参加し、沿道は高校生らしい元気あふれるパフォーマンスで大いに盛り上がった。

スタート

パレード

3部門で2個人1団体が入賞

写真部門	優秀賞（読売新聞社賞）	山形南高等学校　3年　設楽　旦陽さん
書道部門	特別賞	寒河江高等学校　3年　鈴木　稀月さん
放送部門	特別賞　オーディオメッセージ部門	左沢高等学校

写真部門

仕事の流儀

山形南高等学校　三年　設楽　旦陽

私はこの度、このような賞をいただけて大変嬉しく思っています。今回の作品は、道路工事をしている職人の姿を撮影し、約千五百枚のカットの中から四枚を厳選し組写真にしたものです。彼らは、私たちが就寝する時間から仕事を始め、とても過酷な環境の中で働いていることを知りました。そうした職人の存在やかっこよさを伝えるため、試行錯誤を繰り返しながら撮影を行いました。表彰式の際には審査員の先生から、着眼点の良さとバリエーションの豊富さを評価していただき、私にとって実りのある大会になりました。

今回の作品制作で学んだ、生活を支えてくれる人の存在に感謝することを忘れずに作品制作を続けていきます。また、これからも誰かの心を動かし、見た人の記憶に残る写真を撮り続けていきたいと思います。

書道部門

努力の先にあるもの

寒河江高等学校　三年　鈴木　稀月

今年度の全国高総文祭において、特別賞を頂けたことをたいへん嬉しく思います。

作品を制作するにあたって苦労したことは、全体の文字を整えることです。制作期間中、体調を崩して入院することになり、締切りまでの日数が少なくなってしまいました。そのため、一枚一枚書き上げるたびに反省点を考え、毎回目標を持って練習を重ねてきました。また、文字のクオリティーを上げるために起筆や収筆がどうなっているかよく捉え、趙之謙の特徴である逆入平出を何回も練習しました。なかなか思うように書けない時もありましたが、最終的に納得できる作品を書き上げることができました。一年間努力し続けて本当によかったと思いました。

放送部門

苦労した作品と望外の結果

左沢高等学校　二年　長岡あやの

今回の全国高総文祭で発表した『女子高生 × 無敵の左沢線』は、昨年9月にJR左沢線のイベント列車で私がアナウンスをさせていただいた体験に基づく番組です。

私は事前の打ち合わせから出演や編集と、企画・制作の全過程を担当しました。特にアナウンスやナレーションの原稿作りと読みかたは何度も書き直し・録り直しを繰り返して、苦労しました。

そんな思いの詰まった作品であるため、結果発表の直前まで不安と緊張でいっぱいでしたが「特別賞」とわかったときは思わず涙が出てしまいました。

JR東日本左沢線統括センターの皆様をはじめ、ご協力いただいたすべての皆様に感謝し、お礼を申し上げます。

県立博物館主催　学芸員一日体験講座

8月1・2・7日

心躍る体験

米沢東高等学校　三年　金子　祥子

私は今回初めて県立博物館に入館した。しかもこの博物館に関する私の知識は縄文の女神くらいで随分浅いものだった。しかし、高畠町出身の私にとって身近な日向洞窟の展示や江戸の城下町の暮らしそのものの展示を見ていくうちに、全ての展示に心躍り、その魅力に引き込まれていった。特に心に残ったのは土器を洗う作業だ。初めての体験だったが、だんだん見えてくる模様にワクワクしながら取り組んだ。ペラペラのお札を破らないように気を付けながら作業したり、バックヤードの収蔵品の多さに驚いたりと、学芸員について理解が深まる、とても楽しい経験だった。

選択肢の開拓

上山明新館高等学校　三年　吾住　夏輝

今回、学芸員一日体験講座に参加して「学芸員」という仕事について学び、自分の将来の選択肢が増えたように思います。

体験した内容はバックヤードの見学や昆虫標本作成などです。自分が特に良かったと思うのはバックヤードの見学で、普段関係者以外は立入禁止の場所の見学ができたことは良い経験になりました。

この体験を通して学芸員の基本的な業務や、定期的に開催しているイベントなどについて知ることができました。講座の中で他校の生徒のみなさんと共に「学芸員」という職業について学び見識を深める事ができました。

学芸員のいろはを知れた一日講座

酒田光陵高等学校　三年　佐藤　蓮佳

将来学芸員になりたいと思っているので、今回の講座に参加させていただきました。午前中は教育資料館や文翔館といった山形県が誇る文化財を見ることができました。また、歴史の面白さ、未来につないでいきたい文化財の大切さを知ることにつながりました。午後は学芸員の方に具体的な仕事のことなど教えていただきとても勉強になりました。グループ討議ではたくさんの意見を交えアドバイスをいただきながら、1つの博物館のアイデアを作ることができました。貴重な経験ができ充実した一日になりました。ありがとうございました。

この頁の５段目までは天童高等学校総合文化部（2年 尾崎　翠久・2年 伊藤　芽依）が担当しました。

書道部門

書が繋げた出会い

山形北高等学校　三年　髙橋穂乃美

私は今回全国高等学校総合文化祭書道部門に参加させていただきました。全国から集まった作品からは日々の努力がひしひしと伝わり強い感銘を受けました。ダイナミックな作品から繊細な作品、個性の溢れる多種多様な作品を鑑賞し改めて書の可能性の底知れなさに気付かされ、より感動しました。

また、今回の大会では交流時間が設けられており、岐阜の木曾檜や美濃和紙を使った作品制作によって繋がった一期一会の出会いを噛み締めました。

今回の大会で学んだことを胸に今後、より一層書道に深く向き合っていきたいと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

写真部門

想いの一枚

日本大学山形高等学校　二年　宗形　柚希

私にとって写真とは自分が出会った軌跡を記録し、思い出を風化させることなく保存できるツールの一つであると思う。私が出品した作品はお盆に祖父母の家へ帰省した時に撮影したものである。人物や人工物をシルエットで撮影することで夕日の明るさを際立たせるように工夫した。今回参加した全国高等学校総合文化祭では，素晴らしい写真をたくさん目にすることができ、自分とは違う感性を見ることができた。また、生徒交流会では撮影者の作品に対する思いや技法を聞いて写真が持つ豊かな表現力を改めて感じた。今回学んだことをいかしてこれからも写真を楽しみながらシャッターを切り続けていこうと思う。

新聞部門

新聞作りの世界は広い

寒河江高等学校　二年　板垣　匠哉

岐阜県で行われた全国総文祭では、全国の新聞部の高校生と一緒に、東濃地域についての交流新聞を作りました。寒河江高校新聞部は3年生の頑張りで優良賞を受賞しており、ある程度自信をもって参加しましたが、全国から集まった新聞部員は優秀で、私たちが知らない事を多く知っていて、新聞作りの世界は広いと思い知らされました。審査の講評では『なるほど』と思える話を多く聞くことができ、昔先輩方から教えてもらった基本を再認識することもできました。これからは今回学んだ多くの技、書き方、レイアウトなどを駆使し、もっと生徒に耳を傾け、全校生が読みやすく、興味を持ってもらえるような新聞を作れるように頑張っていきたいと思います。

美術・工芸部門

学　び

羽黒高等学校　三年　鈴木　心深

私が全国高等学校総合文化祭に出品した作品の題名は『勇往邁進』です。物事へ一歩踏み出す勇気をコンセプトに制作しました。空に浮かぶ化け物は私のものを作り続けたいという前向きで普遍的な気持ちの表れで、不安になった時、自分の中の憧れを原動力に前に進んでいこうという思いを込めています。全国大会に参加してみて、他県から集まるたくさんの作品を観察して見比べ、次に作る作品をより良くするための学びを得ることが出来ました。このような学びができたのも、サポートしてくださった諸先生方と家族のおかげです。ご迷惑をおかけすることも多々あったのですが、温かく見守ってくださりありがとうございました。

放送部門

日本の中心で山形の魅力を

日本大学山形高等学校　三年　浅野　宏稀

私たちは，「農と人　繋ぐ架け橋」というタイトルで作品を制作しました。この作品では，東根市で地元産の野菜を直売したり，その野菜を使った料理を提供している「農haco」というお店に，スポットを当てました。経営者の太田かほりさんは，お店を農家とお客さんとを繋ぐ町のシンボルにしたいと考えており，その想いを多くの人に伝える作品を制作しました。

総文祭では，全国の高校生が制作した作品を見ることができ，よい刺激を受けました。また，他県の高校生との交流は，とても有意義な時間となりました。撮影に協力してくださった太田さんやお客さん，本当にありがとうございました。この経験を，今後の生活に活かしていきたいです。

郷土芸能部門

継　承

鶴岡中央高等学校　三年　長谷川蒼空

先輩方から受け継いだ伝統ある天魄太鼓部の活動。部員全員が初心者でしたが、仲間との支え合いと信頼関係の中で大きく成長できたと思います。一四名という少人数での演奏でしたが、「聴く人の心に響く、心を揺さぶる演奏」を届けるため、時には意見をぶつけ合い、鶴岡中央のスタイルを完成させ、全国で披露できたと実感しています。また、同じ目標を持つ全国の各都道府県代表の演奏を見て刺激を受けたのはもちろんですが、私たちの演奏は私たちにしかできないと再認識した上で、天魄太鼓部の未来を担う一、二年生にぜひ継承していってほしいと思います。この秋の県大会でも天魄太鼓らしさを発揮し、心に響く心を揺さぶる演奏を目指します。

演劇部門

ただ「観る」ではなく「受け止める」

酒田東高等学校　二年　白畑　珠代

私はこの全国大会を通して、生徒講評委員という活動に対する認識が変わりました。高校演劇における生徒講評委員とは、演劇を観て自分が感動した場面や印象に残った部分を委員の中で共有し、「この劇を通して訴えられていることは何か」という話し合いを経て、さらに「私たちはこの劇から何を得たか」を考えていく活動です。しかしそれは、単に感想や考察を述べるだけではありません。自分の経験と比較し、今後の生き方・考え方がどう変わっていくのかを心に問いかけ、他の人にその思いを届けて初めて「この劇を受け止めた」と言えるのだと、今大会の研修や交流から学びました。日本の今に通ずる歴史を育んだ「岐阜」の地での熱い幸せな日々でした。

文芸部門

岐阜の地で得たもの

山形南高等学校　二年　鈴木　健太

岐阜の地で得た様々な学びについて報告いたします。

文学研修では白川郷を見学しました。ガイドの方々による直截簡明な解説を拝聴することができ、この場所に対する理解がいっそう深まりました。

部門別交流会では、全国の英気あふれる文芸部員の仲間とそれぞれの部誌について意見を交わし、今後の参考になる、素晴らしいアイディアを蓄えることができました。その中には、自分一人では想像もできなかったであろう奇抜なものもあり、多くの人間と意見を交わす重要性を再認識できました。

今回の総文祭では、貴重な経験を得、見識を深めることができました。これらの経験を、以降の創作活動に活かそうと思います。

小倉百人一首かるた部門

挑戦と成長

東桜学館高等学校　三年　伊藤　潤

今年の総合文化祭は決勝トーナメント出場を目標にして出場してきました。昨年度の悔しい敗戦を乗り越え、強くなった自分たちを見せようとしました。予選リーグの対戦相手はどのチームも全国大会入賞常連の強豪チームでした。格上と対戦することが多い中、それぞれが自分のかるたを見せ、一勝を挙げることができた試合もありましたが、結果的には全敗という形で終わってしまいました。県として勝ち切ることはできませんでしたが、どの試合も終盤戦まで結果のわからない試合をすることができ、自分たちの成長を感じることができました。来年度は接戦を勝ち切る精神力、強い相手にも負けない個人の実力をつけてまた挑んできてほしいと思います。

自然科学部門

〝郷土財〟を知る

山形中央高等学校　二年　長沼　佳毅

今回のぎふ総文に参加し、他校の研究発表や記念講演などを聞くことにより新たな学びを得ることができた。そしてその中からこの先行っていく探究活動において重要な視点を知ることができた。森誠一氏の記念講演で〝郷土財〟という造語の意味を理解し、この造語は探究を行っていくうえで重要な要素の一つであると感じた。私はこの造語は物を対象としていると最初は勝手に思い込んでいたが、そのようなことはなく人も対象であることを講演で学び、自分の身の回りで行っている活動について考え直してみることにした。すると自分が思っている以上に〝郷土財〟は身近にあったため、今からでも〝郷土財〟と関われるようにしたい。

囲碁部門

難しくて楽しい対局

荒砥高等学校　三年　安久津春加

私は、第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会囲碁部門の団体戦に出場しました。今年で高校生最後の大会なので、自分の持てる力を十分に発揮することが目標でした。

昨年度参加した全国総合文化祭では、二勝という悔しい結果でしたので、この大会では、絶対に三勝以上を目指し大会に挑みました。

最初に続けて二局負けた後の対局では、絶対勝たないといけないという気持ちで挑みました。その結果勝つことができた時大変嬉しかったです。今回の目標が全国で三勝以上することだったので、最後に満足できる結果を残せてよかったです。反省点はミスが多いことでそこが残念でした。これからは、ミスをできるだけなくす試合をしていきたいです。

最後にいつも温かく指導してくださるお二人のコーチの先生にお礼を申しあげます。

将棋部門

去年の雪辱を果たすために

上山明新館高等学校　三年　冨田　英寿

今年の高文祭は、自分にとって高校最後というのもあって、いい思い出を残したいというよりも、最後までやり遂げるという気持ちが強くありました。去年はあまりいい成績を残せずに終わってしまったので、6月から、手筋と戦法の研究を徹底して、予選通過を目指して頑張ってきました。

そして迎えた高文祭当日、負けてもその負けを引き摺らないよう意識して、対局に臨みました。予選は通過できませんでしたが、去年の成績を超えることができました。

最後の高文祭は、去年の自分を超えることができ、悔いがないものにできました。大学でも、この大会までに努力したことを継続しながら、文武両道を目指して頑張りたいと思います。

弁論部門

広大無辺

山形西高等学校　三年　大瀧　皓子

全国大会―その言葉を聞くだけで、そこにはどんな人達が集まるのだろうと胸が躍りました。大会は関ヶ原の戦いで有名な大垣市からバスで40分離れた大野町で行われました。三日間の大会では、弁論を通して様々な主張が行き交い、中には障がいを持っていたり、母子家庭で暮らしていたりする弁士もいて、私は様々な立場にいる人達の「生」の声を聴くことができました。新たな発見が見つかり、自分の世界が広がるというのはこういうことなのだと強く実感しました。そして彼らと同じ場所で弁論ができることを誇りに思いました。

これまで支えてくださった家族、先生方に深く感謝し、この経験を自信に変えて様々なことに挑戦していきたいと思います。

合唱部門

一生に一度の体験

山形北高等学校　三年　加藤くるみ

肌を焼くような暑さの中で行われたぎふ総文合唱部門。そこで二度とできない貴重な体験をすることができた。

交流会と大会当日は想像以上に明るく暖かい雰囲気で、多少の緊張感はあったものの楽しみながらリラックスして、自分たちらしくのびのびと歌うことができた。他校の、大人数団体の迫力や合同なのに一つの団体のようなまとまり方がとても勉強になった。全体合唱では全国各地の高校生と歌うことができ、初めて会った人たちとでも歌で一つになれることが実感できとても感動した。ハプニングはあったものの最後は怪我もなく全員で帰ってこられたこと、そしてこのような貴重な体験ができたことがとても嬉しい。最後に、準備・運営をしてくださったスタッフに感謝する。

第48回 全国高等学校総合文化祭 岐阜大会参加・出品高校

部　門	参加出品高校、(　)参加人数
演　劇	酒田東 (1)
合　唱	山形北 (8)
郷土芸能	鶴岡中央 (14)
美術・工芸	羽黒 (1)、天童 (2)、九里学園 (1)、米沢興譲館 (1)、新庄南 (1)、山形中央 (1)
書　道	山形北 (1)、酒田西 (1)、新庄南 (1)、庄内総合 (1)、寒河江 (1)
写　真	日大山形 (3)、鶴岡工業 (1)、山形南 (1)
放　送	山形西 (2)、東桜学館 (2)、山形東 (1)、東北文教大山形城北 (1)、左沢 (4)、日大山形 (2)
囲　碁	山形南 (3)、山形北 (1)、荒砥 (1)
将　棋	山形東 (7)、上山明新館 (1)、山辺 (1)、米沢中央 (1)
弁　論	山形西 (1)
小倉百人一首かるた	東桜学館 (5)、酒田東 (1)、羽黒 (2)
新　聞	東桜学館 (2)、山形西 (2)、山辺 (2)、寒河江 (2)
文　芸	山形南 (4)、米沢興譲館 (1)
自然科学	東桜学館 (2)、山形東 (2)、日大山形 (2)、山形中央 (2)、米沢興譲館 (2)